

柿のはなし その2

## 「柿ノ木洞」のはなし

蜂屋町下蜂屋に「柿ノ木洞」という字名があります。

江戸時代、蜂屋村は「御菓子場」に指定され、蜂屋柿が尾張藩に献上されました。蜂屋柿の生産は、いちばん盛んだった時で年間8万個を超えました。

しかし、すべての柿が献上できるわけではありませんでした。収穫された柿から干し柿として献上できる良品の柿は、収穫量のおよそ10分の1程度だったため、できるだけ多くの柿が必要でした。村にはあちこちに柿畑が広がっていたことでしょう。

「柿ノ木洞」は、まさにそれをうかがわせる名といえるでしょう。

※文化の森では、12月に、蜂屋柿に関する展示を予定しています



『加茂郡蜂屋四郷村絵図(部分)』  
1800(寛政12)年 (岸俊明氏所蔵)



柿ノ木洞(蜂屋町下蜂屋地区北東部)

6月1日号に掲載した「はね坂」のはなしの文中、一部不適切と思われる表現がありましたことをお詫び申し上げます。